

## 1 学校教育目標と研修主題

### <学校教育目標>

「夢中」と「笑顔」で共生社会を生きるひと

### <研修主題>

「夢中」になって取り組み、できた喜びに「笑顔」輝く姿を目指して

### <授業づくりの重点>

児童生徒の思いを生かし、一人一人の学びがつながり、ひろがる授業づくり

## 2 研修主題に込められた思い

本校は、昭和49年の開校時から「自分から精いっぱいがんばる人を育てるために」を研究主題に掲げ、知的障害教育校としての実践に取り組んできた。当時は、教育課程や教育方法を模索する中で、何が最も急務な研究目標であるかが議論され、その結果、すべてのことに「精いっぱいがんばる」子どもを育てようという結論に達した。『精いっぱいがんばる』ことが、自己の潜在能力を顕在化し、精神的にねばりのある強い人を育てることになる。ひいては学校という集合の有機体を作りあげる（研究紀要1より抜粋）という先人たちの精神は、本校の合言葉である「みんなと仲よく、明るく元気に、せいいっぱいがんばるひと」に受け継がれている。

学校教育目標『『夢中』と『笑顔』で共生社会を生きるひと』の実現に向けて、令和3年度より、研修主題を『『夢中』になって取り組み、できた喜びに『笑顔』輝く授業づくり』と設定した。目標や目的をもち、最後まで思い切り活動に取り組む姿を「夢中」、学習の中で主体的に様々な力を身に付けたり、発揮したりすることで「できた」を感じる姿を「笑顔」と捉え、せいいっぱいの「夢中」と「笑顔」の姿を引き出す授業づくりを通して、児童生徒一人一人の自立と社会参加の実現に向けた実践を行っていく。

## 3 これまでの授業づくりについて

上記の研修主題を掲げ、令和3年度から3年計画で「展開」「導入」「まとめ・振り返り」という授業における要素に重点を置きながら授業づくりを進めてきた。

一方で単元全体から捉えた児童生徒の学びの姿を見取ることや子どもたちが培ってきた力を次の単元につなげたり、他の場面へ広げたりすることに課題があった。加えて、コロナ禍により制限された教育活動によって、子供同士の関わり、校内や地域との関わりが十分に持てなかったり、「やりたい」という気持ちを大切にしたい児童生徒発信の思い切った活動が難しかったりした面もあった。よって、学習指導要領や教育振興基本計画の理念が示すように、ウェルビーイングの向上や目的、喜びを見出しながら主体的に学ぶ姿を目指していくために、児童生徒の「こうなりたい」「○○したい」という思いを大切

にしていきたいという願いを重点テーマに含めていくこととした。以上の理由により、令和6年度は研修主題『『夢中』になって取り組み、できた喜びに『笑顔』輝く姿を目指して』とし、重点テーマを「児童生徒の思いを生かし、一人一人の学びがつながり、ひろがる授業づくり」に設定した。

4 令和6年度から令和7年度へ

(1) 二つのキーワード（重点テーマ）を基にした授業づくり研修の継続

昨年度（令和6年度）『児童生徒の思いを生かし（キーワード1）、一人一人の学びがつながり、ひろがる（キーワード2）』授業づくりを行い、研修主題『夢中になって取り組み、できた喜びに笑顔輝く姿』に迫った。単元づくりにおいて、研修ツールを活用しながら児童生徒の思いがどのように変容していくかを想定し、「もっとやりたい」「○○になりたい」のような、子どもたちの思いがつながっていく授業を展開することができた。グループ研修を重ねることにより、子どもたちのあられを想定し、授業後はその姿を語り合いながら見取るという営みは定着してきている。方法の部分で、各学部でさらに深めていきたいポイントに焦点を絞ったり、新たな方法を試したりすることができるよう今年度も二つのキーワード（重点テーマ）を継続していくこととした。

(2) 各学部の特徴を生かし、学びを深めるための課題の追究

昨年度の研修を通して、二つのキーワードに関連した、今後さらに深めていきたい課題が整理された。主な課題を下に示す。

|     | キーワード1 思いを生かす   | キーワード2 つながり、ひろがる  |
|-----|-----------------|-------------------|
| 小学部 | 児童の思いを生かす       | 学びがつながる、ひろがる      |
| 中学部 | 生徒の思いを生かす問いの工夫  | 生徒の思考に沿った柔軟な授業づくり |
| 高等部 | 表出の少ない生徒の想定と見取り | 「ひろがりシート」の更なる活用   |

学部の特徴を生かした授業づくりがブラッシュアップされるように、これらの課題を基に、学部研修テーマの検討を図っていく。

(3) PDR サイクルによる授業づくり

学年会、作業班会、G 研（学部グループ研修）を年間計画に位置付けた、PDR（Prep＝準備、計画、Do＝実践、Review＝振り返り、評価）サイクルによる授業づくりを今年度も継続していく。昨年度は各学部で年2回実施された公開中心授業の事前研修、事後研修では、子どもたちを主語にしながら授業づくりについて語り合うことができた。学びのつながりを意識した、根拠ある単元づくりをはじめ、児童生徒の思いを想定することや、夢中と笑顔の姿を見取り、語り合うことなど、教員の資質向上のための学びの場が設定していく。それはこれまでも静岡北特別支援学校の授業づく

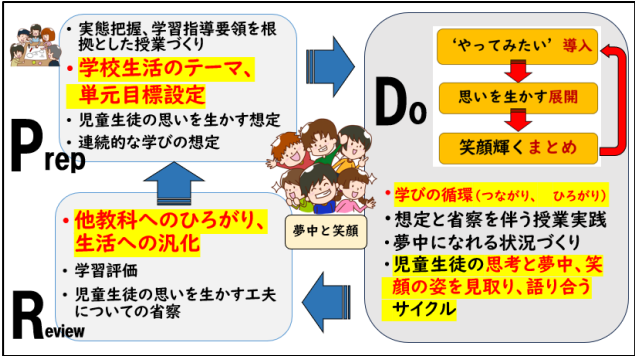


図1 PDR サイクル 学びの蓄積

りの水準を保つ上で欠かせない研修の一部となっている。(2)で説明したような課題を追究していくことで、過去の研修成果に照らし合わせたり、新たに学んだりしたことを積み重ねていきたい。(図1)

#### (4) “授業について語り合い、みんなで学び合う” 校内研修スタイル

静岡北特別支援学校の校内研修は、研修主題、重点テーマに迫るためにG研(学部グループ研修)を核とし、子どもたちを主語とした語り合いをしながら学びを深めている。それぞれの教員が、目の前の子どもたちの思いを生かし、一人一人の学びがつながり、ひろがるための授業づくりを試行錯誤し、目指す姿である夢中と笑顔に迫れているかを語り合うことを大切にしている。「〇〇という子どもの思いを生かすために\*\*という手立てを工夫してみた。そのことが□□という目指す姿につながったと思う。」と解釈した実践事例を集め、議論し省察していくことが、授業づくりの充実と教員の専門性向上につながり、役に立つ研修になると考えている。

### 5 今年度の取組

#### (1) 全体研修

年間4回(うち1回は総合教育センター定期訪問)行い、全職員で学校全体の研修の取組や方向性について共通理解する。

#### (2) 授業づくり

##### ア グループ研修(G研)

研修主題と授業づくりの重点を踏まえて、学部ごとの研修テーマを設定し、PDRサイクル(Prep=準備、計画、Do=実践、Review=振り返り、評価、改善)に基づいた授業研究を行う。窓口となる授業は、各教科等を合わせた指導とする。

| 学部  | 各学部の研修テーマ(目指す姿)と窓口となる授業              |                 |
|-----|--------------------------------------|-----------------|
| 小学部 | 目的に向かって「もっとやりたい」と自分から取り組む姿を目指した授業づくり | 遊びの指導<br>生活単元学習 |
| 中学部 | 生徒の思考に沿い、単元構想の展開を工夫した授業づくり           | 作業学習            |
| 高等部 | 『思いを実現しようと自分から取り組む姿』を目指した授業づくり       | 作業学習            |

##### イ 授業研究会

各学部で年間2回の授業研究会(うち1回は公開授業研究会とする)を実施する。学部ごと助言者(外部講師)を招聘し、指導助言を授業改善や授業力向上につなげる。

授業者は各学部で設定をする。

| 令和7年度 助言者 |                         |  |
|-----------|-------------------------|--|
| 小学部       | 清水特別支援学校 廣 国睦 教諭        |  |
| 中学部       | 清水特別支援学校 香月 文吾 教諭       |  |
| 高等部       | 富士特別支援学校 富士東分校 杉澤 陵太 教諭 |  |

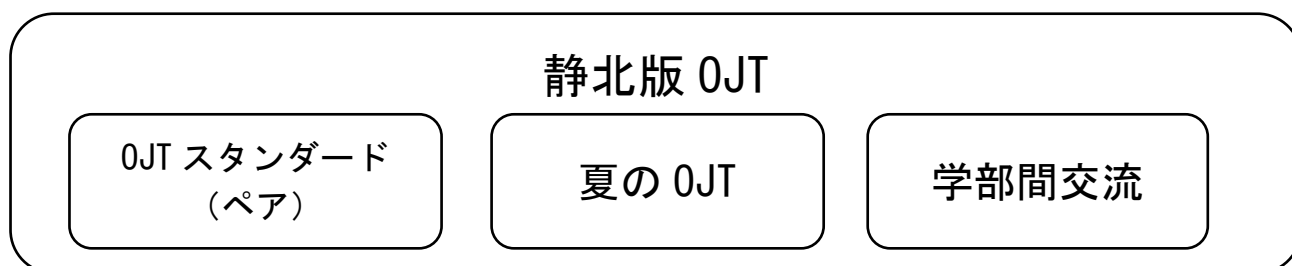
### (3) 静北版OJT

OJTとはOn the Job Training の略称で職場内の実務を通して教員同士が学び合う研修と定義する。

#### ア 目的

- ・教師の「技」（教育技術）を伝え合うことで、専門性の共有や蓄積を図る。
- ・「教え、教えられること」により、教員一人一人の力量と、学校のチーム力の向上を目指す。

#### イ 静北版OJTの三つの取組（略図）



#### ウ 各取り組みの目的（○）や内容

##### （ア）OJTスタンダード

- 授業における教育技術の他、教材・教具の開発、児童・生徒指導、保護者対応など、学校のあらゆる場面での「教師の技」を伝え合い、専門性の向上を図る。
- ・校内においてペア、グループを設定する（発表は第1回全体研修後）。
- ・副校長、教頭、部主事はスーパーバイザーとして指導、相談を行う。
- ・G研、学部会などの機会にペア、グループでの話し合いの場面を積極的に設ける。

##### （イ）夏のOJT

- メンター（講師役）は関心のあるテーマ、及び得意分野についての講座を開講し、教員としての専門性を高める機会とする。また、メンティー（受講者）は、それらの講座に参加し、新たな教育技術を学んだり、自身の業務を振り返ったりできるようにする。
- ・メンター（講師役）は基本的に中堅研対象者（リーダー研）と希望者が担当し、自身の経験に基づいた講座を開講する。日程については研修課で設定する。

##### （ウ）学部間交流

- キャリア教育の視点をテーマとした学部間交流を行い、児童生徒の発達の具合や発達段階に応じた指導方法を学べるようにする。

【学校教育目標】「夢中」と「笑顔」で 共生社会を生きるひと

〈研修主題〉

「夢中」になって取り組み、できた喜びに  
「笑顔」輝く姿を目指して

キーワード1  
思いを生かす  
主体的な学び

キーワード2  
つながり、ひろがる  
連続的な学び

小学部

目的に向かって「もっとや  
りたい」と自分から取り組  
む姿を目指した授業づくり

＜遊びの指導、  
生活単元学習＞

中学部

生徒の思考に沿い、単元  
構想の展開を工夫した授  
業づくり

＜作業学習＞

高学部

『思いを実現しようと自  
分から取り組む姿』を目指  
した授業づくり

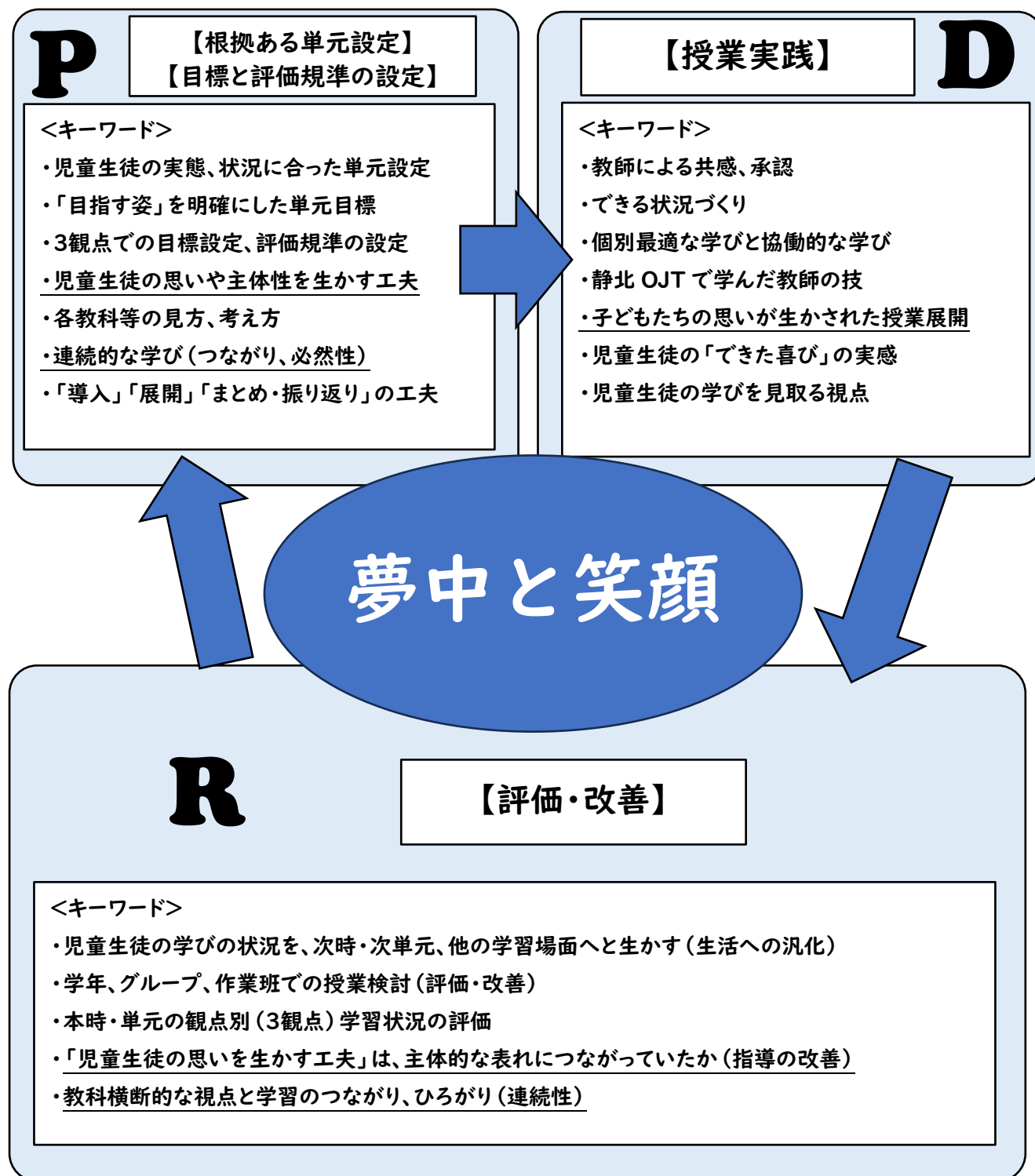
＜作業学習＞

「夢中」と「笑顔」あふれる  
**静北版 OJT**

- ・「教師の技」の伝え合いによる専門性の共有と蓄積
- ・「教え教えられること」による、教員一人一人の力量の向上

# 授業づくりの流れ PDR サイクル

<Prep=準備、計画 Do=実践 Review=振り返り、評価>



## 授業づくりの重点について

- ① 児童生徒の思いを生かし、②一人一人の学びがつながる、ひろがる授業づくり

### <キーワード1 思いを生かす>

子供たちが授業を通して「こうしたい」「こうなりたい」といった、明確な目的や目標をもち、子供たちの思いを生かし、彼らが学習の主体となって輝く授業を目指す。各学部のテーマに沿って、児童生徒の思いを想定し、“思いを生かす”ための仕掛けや工夫について研修していく。



### <キーワード2 つながる、ひろがる>

「つながる」…前後の単元をつなげて考えていくこと。「ひろがる」…他の授業や生活の様々な場面へのひろがりをもたせ、想定していくこと。子供の学びが断続的にならず、連続的につながる、ひろがる授業の在り方を考えていく。

